



1932 (昭和7)年制作。
『幼年倶楽部』10月号付録。
サイズはタテ62cm×ヨコ91cm
のビッグサイズ。裏面はヤマハ、
富川、コロコロランド等の
広告で埋められています。

所蔵=吉田修 写真=藤崎 悠

文・監修 吉田修

よした・おむき◎1954年生まれ。島根県松江市出身。全国求人情報協会常務理事、NPOキャリア開発推進ネットワーク広報部長、和文文化教育学会委員を務める。かたわら、陸地双六倶楽部として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。公式サイト= <http://www.sugoku.net/index.html>

日本橋の白木屋百貨店や委行山のNHKラジオの電波塔があり、代々木の練馬場では単行が行進しています。明治神宮には三代通った家族が基しく鳥居に顔を垂れていきます。その向こうには、神宮球場があり、ピッチャーが振りかぶっています。新宿の西には田園風景が広がっています。洋風の二階建ての家もあれば、茅葺屋根の家もあり、火の見櫓の向こうには紅葉した山々が見えています。四季折々六〇のシーンに四〇〇名の人が登場して時代を彩っています。社会経済、教育思想、軍国主義、家族風貌、庶民の暮らしと歴史、里山風景と江戸の名残りなどすべてが描かれています。この年はリットン調査団の報告書が発せられ、チャップリンが来日して五・一五事件に遭遇しました。軍靴の響く時代だったのです。

「昭和七年という時代をわかりやすく表現するものは？」という質問があれば、私はこの双六を挙げます。大東京名所めぐりは、一九二三年の関東大震災から帝都が復興したことを印象づけるために作られています。

※1 国際連盟によって満州事変や奥州防衛を命じられたイギリスの隷属国。
※2 大日本帝国軍の青年将校たちが総理大臣官邸に乱入し、内閣総理大臣大隈重信を暗殺した事件。

第3回 絵双六に魅せられて
大東京名所めぐり 1932 (昭和7)年



振り出し・上がり 振り出しも上がりも東京駅です。昭和20年の東京大空襲で被災した駅舎は、平成24年にこのコマの通りに復元されました。



高田ノ馬場 雄師安兵衛の18人切りの大道力クレーン。昭和の初めにおいては、江戸時代はそんな意のことはなかったでしょう。

2018 FEBRUARY

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11 建国記念の日	12 振替休日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			